

中学校での「話し合い」と「書面对話」を用いた 思考を深める試み

－振り返りシートと学級通信を活用して－

早稲田大学教師教育研究所
招聘研究員 田中 英子

要 旨

本研究の目的は、中学校の生徒同士が「話し合い」と「書面对話」を繰り返し実践することによって、思考力を深められるかどうかを検討することである。

話し合いは思考しながら行うので、意見が出つくすまでに時間がかかる。そこで、話し合い後に振り返りシートに思いや考えを書き、提出させ、提出されたシートを無記名で一覧にし、生徒に配布する。配布された一覧を読んで、再度意見を記入するといった書面对話を採用した。

学級通信には、学級全員の考えが掲載されているため、一読するだけで学級全員の考えがわかり、話し合いをした時の言葉がよみがえったり、学級での自分の考えも確認したりすることもできるのである。本研究での話し合いのテーマは『人とのかかわり』についてである。話し合い前の考えは、「相手と笑顔で、正直に話す」という考えを持っていた生徒が、「笑顔で話すと、相手の気持ちがほぐれて距離が短くなる。笑顔で話すと、あざむかれているように受け取る人もいるので、難しい。正直に話すと、相手がどう思うかわからない」という考えになり、話し合い後は「正直に話すことは大切だけど、言いすぎてはダメ。その人に合ったやり方で接するとよい」という考えに変容した。また、話し合い後に書かれた内容について考えたことや疑問点に関しては次号の通信に掲載されるので、繰り返し読むことによって、テーマに対する自分なりの考えを納得がいくまで練ることができたようである。そのため、そのテーマについての学びが深められたと考えられる。

全員が納得できるような考えを見つけ出すことや、もう一步、考えを踏み込めると更に深い学びができると考えている。そのためには、教師はどのようにかかわっていけばよいかが今後の課題である。今後も将来にわたって、生徒たちが問い、考えていけるような設定を検討していきたい。この実践を通して、生きる力としての思考力や判断力が身についていくと期待する。

キーワード

中学生、話し合い、書面对話、思考、振り返りシート、学級通信

英文要旨

The purpose of this study is to examine whether junior high school students can deepen their thinking ability by practicing “talking” and “written dialogue” repeatedly.

The discussion takes place while thinking, so it takes time to come up with an opinion. Therefore, after the discussion, the students write their thoughts on the reflection sheet, submit it, and then the teacher lists the submitted sheets anonymously, and distributes them to the students. They used a written dialogue, reading the distributed list and re-entering their opinion. Since the classroom communication contains the thoughts of all, they can understand the thoughts of all the classmates just by reading it, they can resurrect the words when they talked, and they can also check their thoughts in the classroom.

The theme of the discussion in the present study is “Relationship with People”. Before the discussion, the

student who had the idea of “speaking honestly with the other person” said, “If you talk with a smile, the other person’s feelings will be loosened and the distance will be shortened. After the discussion, “It is important to speak honestly, but do not say too much. It’s better to treat in a way that suits you.” It is considered that learning about the theme was deepened.

We think that we can learn deeply. To do so, it is a further task how teachers should be involved. In the future, I would like to consider settings that students can ask and think about.

1. はじめに

平成29年度版の学習指導要領では、子どもが他者とかかわりながら積極的に思考し活動に参加する「主体的・対話的で深い学び」が求められている。深い学びでは、学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが求められている。そのような背景の中で近年は哲学対話に注目が集まっている。哲学対話を道徳教育や総合の時間で導入する試みが行われている。哲学対話は、思考を引き起こすツールとして考えられている。それは、哲学的な問いの答えは1つではないからである。教師自身も誰も哲学的な問いの答えはわからないので、自分の考えを自由に出すことができるのである。自分の考えを自分の言葉で表現して議論していくという形の授業が、論理的思考力やコミュニケーション力（とりわけ話す力ではなく聴く力）等を育成するのである。このような哲学対話を子どもに対して実践した「子どもの哲学」の創始者のマシュー・リップマンや河野（2014）は、哲学対話とは「二人あるいはそれ以上の人数で哲学のテーマについて自由に議論する活動である。」と述べている。リップマンは、子どもに対話型の哲学教育を行い、この方法はユネスコ推奨のもと、アメリカやヨーロッパ、アジア等でも中学校や高校等で実践されている。リップマンは、「こどもの哲学」での3つの目的を「批判的思考」「創造的思考」「ケア的思考」の向上としている（Lipman, 2003）。他人の考えを受け入れながら、物の捉え方やその価値等の課題を自らの思いや考えを伝え、批判的・創造的・ケア的に思考することで、解決できると考えたのである。

しかし、「対話」は思考しながら行うので、意

見が出つくすまでに時間がかかる。中学校では学校行事等も多いため、対話のための時間確保が難しいのが現状である。そこで「対話」ではなく、実践しやすく自由に意見を言い合える「話し合い」を行う方が現実的である。また、生徒の普段の学校生活を考慮すると、毎日書くことが習慣化しているため、「話し合い」を補う形で「書面对話」も行う方がより効果が得られると考えられる。

以上のことを踏まえて本研究の目的は、学校生活内で特別な時間を確保することなく、中学校の生徒同士が「話し合い」と「書面对話」を繰り返し実践することによって、思考を深められるかどうかを検討することである。

2. 哲学対話の手法に着目した中学校での教育実践

2.1 仮説

学習テーマを決めた後、直ぐに話し合いを始めようとする、自分の考えをまとめることができず、聞き役になりやすい。一方、学習テーマに対して、自分なりに今までの経験や学習した時に感じたこと、考えたこと等の体験を思い出して考える時間をあらかじめ設けることによって、学習テーマを解決しようとする意欲が湧いてくると考える。また、考えただけでは様々な意見に流されやすいので、紙面に考えを書くことによって、自分の考えを更に深めることにより考えが明確になると、話し合いに意欲的になると考えたため、仮説1を設定した。

仮説1 生徒は授業の初めに学習テーマや考えること等を理解できると問題を解決しようと積極的になってくる。

また、物事を考える時には、既習事項や体験を振り返って判断することが多いと考えられる。話し合いを通して、自分以外の人の話を聞くことによって、自分では考えつかない感じ方や考え方を知ることができる考えたため、仮説2を設定した。

仮説2 話し合いを通して一人では気がつかなかった考えや見方に気づく。

2.2 方法

2.2.1 対象

関東圏内A中学校1年生1学級（男子16名、女子19名、計35名）で実施した。A中学校の特徴は、関東圏の規模の大きな市の近郊にあり、住宅地が多いところで比較的落ち着いている。明るく素直で、屈託のない生徒が多い。学校の方針としては、「自律して自立する生徒」の育成を目標としている。学校行事にも非常に意欲的に取り組み、1学期に実施される体育祭では、全校一丸となって取り組み、保護者や地域の方々から高く評価されている。また、部活動が盛んで、各種大会やコンクール等で大きな成果を生んでいる。

本学年は、授業に対して落ち着いた学習の雰囲気を作り、課題に対してまじめに取り組もうとする姿勢が見られる。全体的に落ち着いた雰囲気であるが、一部には良好な人間関係を築くことができない生徒が見られる。多くの生徒は基本的な生活習慣や学習習慣が身につけているが、落ち着いて人の話を聞いたり集中して学習に取り組んだりすることができない生徒が数名見られる。

2.2.2 実施時期

X年5月下旬～6月中旬

2.2.3 実施者

筆者が実践を行った。

2.2.4 倫理的配慮

本研究の実施にあたり、生徒が所属している学校長及び当該学年の先生方、生徒に対して研究の

趣旨を説明し、個人が特定できない形で事例を掲載することに関して、口頭で同意を得た。

2.2.5 テーマ決め

テーマを決めることについては、毎日の生活の中で気になることや困っていること等を挙げた。生徒から実際に出されたテーマは、「人との関わり」「親へのイライラ」「友人関係」「授業（宿題）」「部活動」「ストレス解消法」等であった。クラスで考えたいテーマを出し合い全体で検討をした。最終的には『人との関わり』というテーマを選んだ（図1）。



図1 「話し合い」のテーマ決めの様子

2.2.6 話し合い方法

50分授業での対話の割り振りは、始めにテーマ決めを10分間、次にテーマに対する考えの振り返りシート（図2）への記入と司会及び書記決めを10分間、そして円になってすわり対話を20分間、最後に話し合い後の考えの振り返りシートへの記入を10分間とした。ここで、円になってすわるのは、話し合いをする生徒ができるだけ全員、いつでも互いに顔を見て、話しができるようにするためである。多少時間が延びる場合は、帰りの会で対話後の考えを振り返りシートに記入させた。集められた振り返りシートは、担任が学級全員の考えを項目別に表にまとめ、放課後に学級通信（図4）に掲載した。その学級通信は、翌日の朝の会で配布し、その場で生徒に学級通信を読ませた。朝の会は、1日の連絡等で時間がかかるので、帰りの会で学級通信に掲載された内容についての意見や感想を書いてもらった。書かれた学級通信を集めて、放課後に担任が項目別

に全員の意見や考えを次号の学級通信に掲載して、同様に朝の会や帰りの会で読んでもらい、更に意見や感想を書くという方法を採用した。意見が出なくなったら、1つのテーマについての対話を終了した。

2.2.7 話し合い内容

2.2.7.1 教師の働き

教師の働きかけの有無が話し合いに影響を及ぼすかを検討するために、話し合いを2段階で実践した。この学級は学級会の経験はあるが、テーマを自分たちで決めて話し合うことは初めてである。始めは、生徒だけで話し合いを行い、その評価を行った。次に、教師が働きかけをする話し合いを行い、その評価を行った。話し合いの評価は振返りシート中にあり、5件法で「大変よくできた5～全くできない1」とした。評価内容は、「他人の意見をじっくりと聴くことができた」「自分の意見を言うことができた」「自分の意見と他人の意見が違うことがわかった」「話し合いによって、深く考えることができた」「考え方に変化が起きた」「話し合いには安心して参加できた」の6項目とした(図3)。

教師の働きかけは、生徒が発言した考えがはっきりしているか、その考えが理屈に合っているかを評価しながら、話し合いが続くように疑問を投げかけ、軌道修正した。生徒同士の話をうまくつなげ、生徒が主体的に進めているという自覚をもたせながら、生徒の意見を尊重し、より深い考え方に導いていくことが教師の役目であると考えた。

2.2.7.2 振返り

生徒は、授業や学校行事の感想文や作文で毎日書くことに慣れていていると考えられる。従って、話し合いよりも書くことの方が取り掛かりやすいと思われたため、話し合いをする前に自分の考えを振返りシートに書き、話し合いの準備を行うこととした。振返りシートに書く流れは、話し合いのテーマ決定後に自分の考えをシートに書き、その後、話し合い終了後に話し合いでの「疑問点」「対話後の考え」等について書くというものである。

月 日 () 話し合い _____ 年 組 () 氏名 _____

☆話し合いのテーマ _____

☆考え

<話し合い前の考え>

↓

<話し合い後の考え>

☆話し合い中

「考えたこと」「疑問点」「対話で言えなかったこと」

☆話し合い後の感想

印象に残った意見

話し合いをした感想

☆話し合いの評価

内 容	大 変 よ く で き た	ほ と ん ど で き た	ふ つ う	ほ と ん ど で き な い	全 く で き な い
※自分の気持ちに合うところに ○をつけましょう。					
他人の意見をじっくりと聴くことができた	5	4	3	2	1
自分の意見を言うことができた	5	4	3	2	1
自分の意見と他人の意見が違うことがわかった	5	4	3	2	1
話し合いによって、深く考えることができた	5	4	3	2	1
考え方に変化が起きた	5	4	3	2	1
話し合いには安心して参加できた	5	4	3	2	1

図2 振返りシート



図3 話し合いの様子

なかま ○○中学校第○号 年 組 通信◇月◇日

学級生徒の様子や行事予定などの内容 省略

☆学級のなかまの考え <テーマ人とのかわり>

疑問に思ったこと ○○○	話し合い後の考え □□□
-----------------	-----------------

☆通信を読んだ考え
仲間の考えや意見に対して、「考えたこと」「疑問に思ったこと」等があれば下の欄に書きましょう

疑問に思ったこと ○○○	対話後の考え □□□
-----------------	---------------

氏名 _____

図4 学級通信見本

2.2.8 評価方法

話し合いの流れに関することと、話し合い後の考えの変化に関することの2点について評価を行った。

話し合い後に、振り返りシートに書かれた内容をその生徒の学級での様子と照らし合わせて、内容分析を用いて分類した。「子どものための哲学」を実践している河野（2014）は、書かれた文章を「批判的思考」「創造的思考」「ケア的思考」に分類して評価している。その基準を表1に示した。本研究でも河野の評価基準を参考に、振り返りシートに書かれた内容を「批判的思考」「創造的思考」「ケア的思考」に分類し分析した。

表1 対話の評価項目例

内 容	
批判的思考	◎説明 ○言葉を定義しているか ○意味を明確にしているか
	◎根拠づけ ○根拠や理由が正しく挙げられているか ○反例が出せたか
	◎分析 ○複雑なものを要素への分析できたか ○比較や対照を行ったか ○適切に問題を分類したか ○カテゴリーを適切に使えたか
	◎論理性 ○論理的な展開ができたか ○演繹や帰納を適切に行ったか
	◎反省性 ○自分の考えを議論のなかで点検したり、修正したりしたか
創造的思考	○新しい考えを出せたか ○仮説を立てられたか ○他の可能性や代替案を提示できたか ○アイデアを展開できたか ○想像や比喩、架空の事例を思いついたか
ケア的思考	○議論している内容の価値を理解しているか ○自分以外に立場の視点に立てたか ○自分や他の生徒の感情に配慮できたか ○自分の発言が他の生徒に及ぼす影響に意識を向けられたか ○グループ全体で議論の成果に目を向けられたか ○他人の発言を適切に評価できたか ○他人や反論や疑問を尊重できたか ○他人の発言やグループの議論を展開したり、深めようとしたりしたか

※河野哲也『子ども哲学』で対話力と思考力を育てる』P.205-206より転載

3. 結 果

3.1 事例による「話し合い」内容

<テーマ> 『人とのかわり』

<設定理由>

「小学校の時は仲良くしていたのに、急にクラスの人に自分の悪口を言っている」「部活動の先輩は、文句ばかり言っている」「悪口を言われるのは怖い」「どのように人と接したらよいかわからない」「自分だけなのかもしれないけど、クラスの人とはどのように人と関わっているのかが知りたい」等が理由であった。

3.2 教師の働き

まず、生徒だけで話し合いを行った。始めに提案者が話し、それを受けて、自分の意見を発表する生徒が出るまでに2分かかり、その後5分経過しても次の発表者が現れず、雑談が始まってしまったので終了とした。話し合い評価は、どの項目についても「全くできない1」を選んだ生徒がほぼ全員であった。

上記と同じ生徒で教師の働きかけがある話し合いを行った場合では、授業時間終了までの25分間、話し合いが継続した。話し合い評価は、どの項目についても「大変よくできた5」「ほとんどできた4」が多かった。

3.3 話し合い前の考え

振り返りシートに、「人との関わり」について、話し合いをする前の意見をまとめた。35人分の話し合い前の考えを内容分析で分類した。その結果、6種類の分類となった。分類内容は、「受入れ」「平等」「協力」「環境」「会話」「挨拶」である。主な意見は次の通りである。

『受入れ』では、「自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える」「相手の対場に立つてつき合う」等と学級の約2/3は、受け入れに関する意見を述べている。『平等』では、「同じ立場になる」「差別をなくす」「誰とでも対等な気持ちを持つ」という意見があった。『協力』では、「協力して助け合うことが大切だ」「困っている人がいたら、周りが助ける」という意見があった。『環境』では「誰もが楽しめる環境を作る」等、『会

話』では「自分と相手との違いを考えて話をする」等、『挨拶』では「挨拶をしっかりと相手の目を合わせてする」等の内容があった。以下に、振り返りシートに書かれた内容を紹介します（表2）。

表2 話し合い前の考え

内 容	
受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○理解し合うことが大切。 ○自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える。 ○自分のことを相手に知ってもらい、自分も相手の話を聞く。 ○相手の対場に立って、つき合う。 ○相手の性格等を理解して、仲良くなればそれが一番。 ○相手を思う気持ちや姿勢を大切にす。 ○相手の立場になって、その人の気持ちを考えて、相手を尊重するのを忘れてはいけないと思った。 ○間違っていることは、相手にしっかりと間違っていると伝えなければいけない。 ○人の好き嫌いを聴いて、心を開いて自分が相手に合わせればいい。 ○他人の良い所を見つけて受け入れる。 ○好き嫌いをなくし、どんな人にも平等に。 ○自分と合わない苦手な人も必ず長所があるから、長所を認める。 ○平等につき合う。 ○優しく寄り添う。 ○一人一人は違う考えだし、得意な事や不得意な事も人によって違う
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが楽しめる環境を作ることが受け入れること。 ○誰もが楽しめる環境はいい。 ○他人の良い所を認め、受け入れる環境をつくる。
平等	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ立場になる。 ○誰とでも対等な気持ちを持つ。 ○差別をなくす。 ○色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ○人と人との関わり方は、平等にしたほうがいい。 ○色々な人と対等な気持ちを持つ。 ○車いすの子どもと私たちとでは、できることが違うから、差別みたいになり不平等になってしまう。
会話	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と相手との違いを考えて話をする。 ○まずは軽い話から始め、仲良くなってきたら、相手の話に合わせる。 ○自分の思っている事や言いたい事は、正直に素直に言う。
協力	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの人の不自由な部分を助け合っていく。 ○優しい人と協力することで、気分がよくなる。 ○困っている人がいたら、周りの人が助ける。 ○協力をして助け合うことが大切だ。 ○相手の気持ちを考えて、助ける。
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をしっかりと相手の目を合わせてする。 ○思いやりをもって、「ありがとう」「ごめんなさい」等の言葉をしっかりと言う。

3.4 話し合いによる内容

『人との関わり』の大テーマを掘り下げて、「色々な人の個性を知り、それを認めるにはどうしたらよいか」の問いで、話し合いを進めた。話し合いが始まると、具体的な関わりの問題が出てき

た。例えば、「差別をなくすとあったが、差別をしていたのですか?」「誰とでも関わるとよいとあったが、苦手な人とどのように関わったらよいか?」「積極的に話すとあったが、自分ばかり主張するのではなく、相手の気持ちを尊重することも大切。そして、相手の気持ちを尊重することだけではなく、相手との良い関わり方や協力することが大切だ。」等と、様々な疑問や考えが発言され、身近な問題として、生徒たちは考えや思考を巡らせていた。表3にある生徒3人（C1～C3）は生活体験等を基に、自分の考えを主張している。話し合いに慣れていないため、一般的な関わりについて述べ、話しが進まなかった。他の生徒（C4）の意見からは、日頃の体験で嫌だったことについての発言だと見て取れる。5人の生徒（C5からC9）は、嫌な言葉を今までは言われたままでいたようである。話し合いの中で、その時のことを思い出して、嫌だった思いを言葉として表している。「嫌な体験をしている人は手を挙げて下さい」と問うとほとんど全員が挙手をし、口々に「あの言葉は本当に嫌だった」「つらかった」「もう言われたくない」と口火を切ったように一斉に語り出した。一斉に語り出すと何を言っているのか分からないので、話したい人は順番に思いを語らせた。以下に、その時の話し合いの流れを一部紹介する（表3）。

3.5 話し合い後の考え

テーマに対する「話し合い後の考え」をまとめて記入し、考えや意見の整理を行わせた。振り返りシートに書かれた内容35人分の話し合い後の考えを内容分析で分類した。その結果、5種類の分類となった。5種類の分類は、「受入れ」「環境」「平等」「積極的な会話」「協力」である。主な意見は次の通りである（表4）。

『受入れ』では、「最初は相手の立場だけを考えればよかったと思ったが、『悪い所は注意をすることも大切』という意見で、確かに優しくするだけではその人のためにならないと思った」という考え

表3 人との関わりについての話し合いの一部

話し合いのやりとり (C:生徒、T:教師)	
C1	個性を認めるとよいです。個性はいいことだから仲良くする。そして、助け合う。
C2	相手の事をよく考えて話すことも大切。仲良くなりたいたいの「うざい」と言われた時、何か嫌だね。
C3	へえ～って感じ。嫌だったし、傷ついた。
C4	悪気はないと思うけど、嫌だよ。なんで、下に見ているのかな。
C5	「うざい」は、言っちゃだめだよ。理由は、何。納得できる理由が欲しい。
C6	「死ぬ」と言われた時も傷ついた。何か嫌だよ。
C7	「死ぬ」という理由は？納得できる理由が欲しい。
C8	本当に死んじゃったらどうするんだろうね。
C9	「死ぬ」も、言っちゃだめだよ。
T1	嫌な言葉を言われたことがある人は、挙手をしてください。
※ほとんど全員が挙手した。	
T2	手をおろしてください。 どういう気持ちになったのか、話せる人は話して下さい。
省略	
T3	色々な人の個性を知り、それを認めるということは、どうしたらよいのでしょうか。
C13	プラス思考で関わるといいね。
C14	相手の立場を考えて、発言する。

表4 話し合い後に生徒が書いた振り返りシート内容「話し合い後の考え」

内 容	
受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は相手の立場だけを考えればよかったが、「悪いところは注意することも大切」という意見で、確かに優しくするだけではその人のためにならないと思った。 ○楽しく接するだけでなく、相手のことを考えて思いやることも大切なことをいろんな人の意見を聞いて思った。
受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と同じ考え方の人、または、表現行動できなくても相手を思う気持ちが大事だと言う人もいて、それらの考えを否定するのではなく、理解していくのが大切。 ※話し合い前と同じ考え <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって、その人の気持ちを考えて、相手を尊重するのを忘れてはいけない。 ・好き嫌いをなくし、どんな人にも平等に。 ・相手を思う気持ちや姿勢を大切に。 ・自分と合わない苦手な人も必ず長所があるから、長所を認める。 ・平等に付き合う。 ・相手の性格等を理解して、仲良くなればそれが一番。 ・人の好き嫌いを聴いて、心を開いて自分が相手に合わせればいい。 ・自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の事をよく知りその人にあった環境で皆と平等に接することが大切。 ○一人ではなく、クラス全体でだれでもが過ごしやすい環境を作ることが大切だ。 ※話し合い前と同じ考え <ul style="list-style-type: none"> ・他人の良い所を認め、受け入れる環境をつくる。
平等	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の事ばかり聴くのではなく、自分の意見も入れながら話した方がいい。 ○差別はしたくないと考えている人が多いことがわかった。 ※話し合い前と同じ考え

内 容	
平等	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ・人と人との関わり方は、平等にしたほうがいい。 ・同じ立場になる。
積極的な会話	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に話すものいいことだが、あまり攻め過ぎない。 ○積極的にどんどん話すと欲しかったが、まず相手の意見を聞いてから話した方がいい。 ○最初は、人と平等に接するのがいいと思ったけど、積極的に話しかけるのが一番良かった。 ※話し合い前と同じ考え <ul style="list-style-type: none"> ・自分と相手との違いを考えて話をする。
協力	<ul style="list-style-type: none"> ○「協力する」という意見から、僕も意見が変わり、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することとか、よい人に関わり方だと考えた。 ○「協力する」という意見を取り入れ、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することも大切、よい関わり方だと考えた。 ○体が不自由な人には、優しく接するということがしかなかったけど、対話をして他にもたくさんの関わり方があるということがわかった。 ○確かにコミュニケーションは大切だし、仲良くするのもいいけど仲が良くなればなるほど、喧嘩が多くなってしまっているので気をつけたほうが良い。 ○相手の事を考えて互いの事をよく知って、大切にしようと思った。仲間になれば、またそこから仲間の輪が広がっていくという意見に共感した。 ○ぜんぜん合わせない人とつき合うと毎回ストレスがたまって疲れてしまう。嫌だと思ふところがあるので、やっぱりちょっと合わすというのは大事だと思いました。 ○「みんなに合わせて行動する」「合わせないで行動する」という意見は、合わせ過ぎもよくないしマイペースすぎもよくないので、使い分けたい。 ○その人の事を知るだけではなく、自分のことも知ってもらおう。相手を知るだけだと、相手は自分のことは何もわからないから、自分の事も知っていたら、もっと付き合っていきやすくなる。 ※話し合い前と同じ考え <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの人の不自由な部分を助け合っていく。 ・相手の気持ちを考えて、助ける。 ・協力をして助け合うことが大切だ

があった。『環境』では、「一人ではなく、クラス全体でだれでもが過ごしやすい環境を作ることが大切だ」という考えがあった。『平等』では、「相手の事ばかり聴くのではなく、自分の意見も入れながら話した方がいい」という考えがあった。『積極的な会話』の中では、「積極的にどんどん話すと欲しかったが、まず相手の意見を聞いてから話した方がいい」という考えがあった。『協力』では、「体が不自由な人には、優しく接するということがしかなかったけど、話し合いをして他にもたくさんの関わり方があるということがわかった」「ぜんぜん合わせない人とつき合うと毎回ストレスがたまって疲れてしまう。嫌だと思ふと

ころがあるので、やっぱりちょっと合わすというのは大事だと思いました」等という意見があった。

話し合い後に35人の考えを河野（2014）が述べている評価基準「批判的思考」「創造的思考」「ケア的思考」に分類を行った（表5）。主な考えは、次の通りである。

『批判的思考』では、「相手の事ばかり聴くのではなくて、自分の意見も入れながら話した方がいい」「みんなに合わせて行動する。または、合わせないで行動するという意見は、合わせ過ぎもよくないしマイペースのよくないので、使い分けようと思う」等という考えがあった。本研究のテーマ『人との関わり』では、『創造的思考』はみられなかった。『ケア的思考』では、「楽しく接するだけでなく、相手のことを考えて思いやることも大切なことをいろいろな人の意見を聞いて思った」「相手の事をよく知り、その人にあった環境でみんなと平等に接することが大切」等という考えがあった。

3.6 話し合い後に「考えたこと」

話し合い後に振り返りシートに「考えたこと」を記入した生徒は、20人であった。内容分析で分類した結果、4種に分類した。その分類は、「挨拶」「悪口」「受入れ」「会話」であった。主な意見は次の通りである（表6）。

『挨拶』では「挨拶がきっかけをつくる」等の意見があった。『悪口』では、「悪口を言われたら、納得できる理由が欲しいという意見になるほどと思った」等という考えがあった。『受入れ』では、「自分中心で、物事を考えるのではなく、周りの人の意見や思いを少しずつ理解していく。相手を感じる気持ちや姿勢が大切。色々な人の意見や考え方の違いがあっっておもしろかった」等という意見があった。『会話』では、「みんな『明るく笑顔で話す』等、似たような考えだったので、同じ考えだと思った。誰にでも苦手な相手はいると思うけど、距離をとらずにちょうどいい距離を保っていらればいいと思う。相手の性格などを理解して仲良くなればそれが一番」等という考えがあった。

表5 「話し合い後の考え」の思考分類

	内 容
批判的思考	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は相手の立場だけを考えれば良かったが、「悪いところは注意することも大切」という意見で、確かに優しくするだけではその人のためにならない。 ○自分と同じ考えの人、表現行動できなくても相手を思う気持ちが大事だと言う人もいて、それらの考えを否定するのではなく、理解していくのが大切。 ○差別はしたくないと考えている人が多いことがわかった。 ○相手の事ばかり聴くのではなくて、自分の意見も入れながら話した方がいい。 ○積極的に話すものいいことだが、あまり攻め過ぎない。 ○最初は、人と平等に接するのがいいと思ったけど、積極的に話しかけるのが一番良いと思った。 ○確かにコミュニケーションは大切だし、仲良くするのもいいけど、仲が良くなればなるほど、けんかが多くなってしまうので気をつけたほうが良い。 ○ぜんぜん合わせない人とつき合うと毎回ストレスがたまって疲れてしまう。嫌だと思えるところがあるので、やっぱりちょっと合わすというのは大事。 ○「みんなに合わせて行動する」「合わせないで行動する」という意見は、合わせ過ぎもよくないしマイペースすぎもよくないので、使い分けようと思う。 ○積極的にどんどん話すと良かったが、まず相手の意見を聞いてから話した方がいい。 ○自分と相手との違いを考えて話しをする。
ケア的思考	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を思う気持ちや姿勢を大切にすること。 ○自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える。 ○他人の良い所を認め、受け入れる環境をつくる。 ○色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ○最初は、人と平等に接するのがいいと思ったけど、積極的に話しかけるのが一番良いと思った。 ○その人の事を知るだけでなく、自分のことも知ってもらう。相手を知るだけだと、相手は自分のことは何もわからないから、自分の事も知っていたら、もっと付き合っていくやすくなる。 ○相手の事を考えて互いの事をよく知って、大切にしようと思った。仲間になれば、またそこから仲間の輪が広がっていくという意見に共感した。 ○楽しく接するだけでなく、相手のことを考えて思いやることも大切なことをいろいろな人の意見を聞いて思った。 ○相手の立場になって、その人の気持ちを考えて、相手を尊重するのを忘れてはいけない。 ○自分と合わない苦手な人も必ず長所があるから、長所を認める。 ○相手の気持ちを考えて、助ける。 ○好き嫌いをなくし、どんな人にも平等に。 ○平等につき合う。 ○人と人との関わり方は、平等にしたほうが良い。 ○相手の事をよく知り、その人にあった環境でみんなと平等に接することが大切。 ○色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ○相手の性格等を理解して、仲良くすればそれが一番。 ○人の好き嫌いを聴いて、心を開いて自分が相手に合わせれば良い。 ○相手の事ばかり聴くのではなくて、自分の意見も入れながら話した方がいい。 ○「協力する」という意見を取り入れ、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することも大切、よい関わり方だと考えた。 ○協力をして助け合うことが大切だ。 ○確かにコミュニケーションは大切だし、仲良くするのもいいけれど、仲良くなればなるほど、けんかが多くなってしまうので、気をつけたほうが良い。 ○それぞれの人の不自由な部分を助け合っていく。 ○体が不自由な人には、優しくすることしかあまり思い浮かばなかったけれど、対話をして他にもたくさん関わり方があるということがわかった。

表6 対話後に「考えたこと」

内 容	
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶がきっかけをつくる。 ○挨拶をするなど、相手が言われて嬉しいことなどを言う。 ○自分の意見やみんなの意見、挨拶をするや相談することもそうだなと思った。
悪口	<ul style="list-style-type: none"> ○「悪いことは、素直にすぐあやまる」ということがつけたし。 ○悪口を言われたら、納得できる理由が欲しいという意見になるほどと思った。 ○「悪口を言われたら八つ当たり」と言っていたけれど、無視が一番じゃないかと思った。それでも落ち着かなかったら、誰かに相談したほうがいい。 ○思っていることと現実も加えて説得する。実際にできるようにする。そこが大切。
受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のことを相手に知ってもらい、自分も相手の話を聞く。 ○相手だけを気遣うのではなく、自分の事も発言して、お互いが気持ち良くなる会話や行動する。人の個性を認め、相手と仲良くすることに同感した。 ○他の人の意見を聞いていると小さなことでもいいから、少しずつ話していったり、相手の気持ちを考えたりするといつという意見を聞いて、そういうことも大切だと思った。 ○自分中心で、物事を考えるのではなく、周りの人の意見や思いを少しずつ理解していく。相手を思う気持ちや姿勢が大切。色々な人の意見や考え方の違いがあっておもしろかった。 ○どういうふうに、相手と接すればいいかが少しわかり考えが変わった。
会話	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は軽い話から始める。相手から言われて嬉しいことを言う。 ○前は苦手な人とは、あまりかかわらない方がいいのではないかと思っていた。もう一度よく話してみたら、仲良くなれるかもしれないから、食わず嫌いのように好き嫌いせず、もう一度やってみようという心を大切にす。 ○みんな「明るく笑顔で話す」等、似たような考えだったので、同じ考えだと思った。誰にでも苦手な相手はいると思うけど、距離をとらずにちょうどいい距離を保っていられたらいいと思う。相手の性格などを理解して仲良くなればそれが一番。 ○差別をなくすことは、大切。相手の言葉ばかり考えているのは、だめ。 ○わかりやすい言葉を使って、相手の頭の中にその言葉が残るややすいという意見で、考えが変わった。 ○「明るく相手の顔を見て、笑顔で話す」という意見で、確かに明るく笑顔で話すのは大切だと思う。対話する前は、思ってもいなかったけど、聴いてみて、この考えもすごく大切だと思った。 ○みんな、優しくすると言って、間違っていることはしっかりと間違っていると伝えなきゃいけない。 ○優しくしてあげることで、聴いてもいい気分になれるんじゃないかと思った。

3.7 対話後に「疑問に思ったこと」

話し合い後に振り返りシートに「疑問に思ったこと」について記入した生徒は13人であった。内容分析で分類した結果、3種に分類した。その分類は、「会話」「関わり」「その他」であった。主な意見は次の通りである（表7）。

表7 対話後に「疑問に思ったこと」

対話後に「疑問に 思ったこと」内容	
会話	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ、仲良くない人と無理して、話さないといけないのか。 ○正直って何？正直に話すと相手がどう思うかわからない。 ○笑顔で話すがあると、目が不自由な人には、どう話すのか。 ○相手に合わせるとあるが、暗い話の時は暗く話すのか。 ○相手に分かる内容の話をするには、どうすればいいのか。 ○たくさん考えているが、実際に話しかけられるのか。 ○自分の気持ちを積極的に話したら、相手の気持ちを考えずに話すのと同じではないか。2つを両立させるにはどうすればいいのか、教えてほしい。
関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○どうして、人と関わる時、恥ずかしがってはいけないのか。 ○その人に合わせたりその人の立場になって考えたりするとあった。が、考えなくても見た目ではわからないか。 ○気の合う人だけ話すとすると、苦手な人や嫌だと思ふ人と話さないでいて、人と関わりがなくなってしまうのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○体が不自由な人に優しくするとは、体が不自由な人だけ優しくするということか。他の人には優しくしないのか。 ○仲間になれば輪が広がると言っていたが、どのように輪を広げていけばいいのか？仲間の輪とは。 ○人は生まれたころから平等ではないのに、なぜ悲しむ人がいるのか。

『会話』では、「自分の気持ちを積極的に話したら、相手の気持ちを考えずに話すのと同じではないか。2つを両立させるにはどうすればいいのか、教えてほしい」等の意見があった。『関わり』では、「気の合う人だけ話すとすると、苦手な人や嫌だと思ふ人と話さないでいて、人と関わりがなくなってしまうのではないか」等の意見があった。『その他』では、「体が不自由な人に優しくする」等の意見があった。また、「体が不自由な人に優しくするとは、体が不自由な人にだけ優しくするということか。他の人には優しくしないのか」等の意見があった。

3.8 対話前後の変化（学級）

話し合い前と後の考えの比較を行った。内容分析でまとめた項目が、話し合いの前後で同じ項目は「受入れ」「環境」「平等」「会話」「協力」の5種類であった。話し合い前の考えでは、「挨拶」の内容があったが、話し合い後の考えには無くなった。主な意見は次の通りである（表8）。

話し合い前と後の考えが変わっていない意見が、全体では15件見受けられた。話し合い前と後の意見

表8 生徒が書いた振り返りシートの対話前と対話後の考え一覧

	対話前の考え	対話後の考え
受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○理解し合うことが大切。 ○自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える。 ○自分のことを相手に知ってもらい、自分も相手の話を聞く。 ○相手の性格等を理解して、仲良くなればそれが一番。 ○相手を思う気持ちや姿勢を大切にすること。 ○相手の立場になって、その人の気持ちを考えて、相手を尊重することを忘れてはいけないと思った。 ○間違っていることは、相手にしっかりと間違っていると伝えなければ、いけない。 ○人の好き嫌いを聴いて、心を開いて自分が相手に合わせればいい。 ○他人の良い所を見つけて受け入れる。 ○好き嫌いをなくし、どんな人にも平等に。 ○自分と合わない苦手な人も必ず長所があるから長所を認める。 ○優しく寄り添う。 ○一人一人は違う考えだし、得意な事や不得意な事も人によって違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は相手の立場だけを考えれば良かったが、「悪いところは注意することも大切」という意見で、確かに優しくするだけではその人のためにならないと思った。 ○楽しく接するだけではなく、相手のことを考えて思いやることも大切なことをいろんな人の意見を聞いて思った。 ○自分と同じ考え方の人、または、表現行動できなくても相手を思う気持ちが大事だと言う人もいて、それらの考えを否定するのではなく、理解していくのが大切。 <p>※対話前と同じ考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって、その人の気持ちを考えて、相手を尊重することを忘れてはいけない。 ・好き嫌いをなくし、どんな人にも平等に。 ・相手を思う気持ちや姿勢を大切にすること。 ・自分と合わない苦手な人も必ず長所があるから、長所を認める。 ・平等につき合う。 ・相手の性格等を理解して、仲良くなればそれが一番。 ・人の好き嫌いを聴いて、心を開いて自分が相手に合わせればいい。 ・自分と相手の考えが違うところを認めるとつき合える。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが楽しめる環境を作ることが受け入れること。 ○誰もが楽しめる環境はいい。 ○他人の良い所を認め、受け入れる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の事をよく知り、その人にあった環境でみんなと平等に接することが大切。 ○一人ではなく、クラス全体でだれでもが過ごしやすい環境を作ることが大切だ。 <p>※対話前と同じ考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人の良い所を認め、受け入れる環境をつくる。
平等	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ立場になる。 ○誰とでも対等な気持ちを持つ。 ○差別をなくす。 ○色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ○人と人との関わり方は、平等にしたほうがいい。 ○誰とでも対等な気持ちを持つ。 ○車いすの子どもと私たちとは、できることが違うから、差別みたになり不平等になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の事ばかり聴くのではなくて、自分の意見も入れながら話した方がいい。 ○差別はしたくないと考えている人が多いことがわかった。 <p>※対話前と同じ考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な人たちと楽しく接して差別なくして仲間になる。 ・人と人との関わり方は、平等にしたほうがいい。 ・同じ立場になる。
会話	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく笑顔で話す。 ○まずは軽い話から始め、仲良くなってきたら、相手の話に合わせる。 ○自分の思っている事や言いたい事は、正直に素直に言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に話すものいいことだが、あまり攻め過ぎない。 ○積極的にどんどん話すとしたが、まず相手の意見を聞いてから話した方がいい。 ○誰にでも苦手な相手はいると思うけど、距離をとらずに、ちょうどいい距離を保っていられたらいいと思う。 ○顔を見て話すと、相手の気持ちがほぐれて距離が短くなる。笑顔で話すと、あざむかれているように受け取る人もいるので、難しい。正直に話すと、相手がどう思うかわからない。
協力	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの人の不自由な部分を助け合っていく。 ○優しい人と協力することで、気分がよくなる。 ○困っている人がいたら、周りの人が助ける。 ○協力をして助け合うことが大切だ。 ○相手の気持ちを考えて、助ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「協力する」という意見から、僕も意見が変わり、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することとか、よい人との関わり方だと考えました。 ○「協力する」という意見を取り入れ、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することも大切、よい関わり方だと考えた。 ○体が不自由な人には、優しく接するということがあまり思い浮かばなかったけど、対話をして他にもたくさん関わり方があることがわかった。 ○確かにコミュニケーションは大切だし、仲良くするのもいいけど、仲が良くなればなるほど、喧嘩が多くなってしまうので気をつけたほうが良い。 ○相手の事を考えて互いの事をよく知って、大切にしようと思った。仲間になれば、またそこから仲間の輪が広がっていくという意見に共感した。 ○ぜんぜん合わせない人とつき合うと毎回ストレスがたまって疲れてしまう。嫌だと思うところがあるので、やっぱりちょっと合わすというのは大事。 ○「みんなに合わせて行動する」「合わせないで行動する」という意見は、合わせ過ぎもよくないしマイペースすぎもよくないので、使い分けようと思う。 ○その人の事を知るだけではなく、自分のことも知ってもらおう。相手を知るだけだと、相手は自分のことは何もわからないから、自分の事も知っていたら、もっと付き合っていきやすくなる。 <p>※対話前と同じ考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの人の不自由な部分を助け合っていく。 ・相手の気持ちを考えて、助ける。 ・協力をして助け合うことが大切だ。
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をしっかりと相手の目を合わせてする。 ○思いやりをもって、「ありがとう」「ごめんなさい」等の言葉をしっかりと言う。 	

を比較すると、意見の深まりが見られる。『受入れ』では、話し合い前と考えが変わっていないものが8件あったが、他人の意見で考えが変わったものが目立った。例えば、「相手の立場を考えればいい」と思っていたが、話し合いをして色々な意見を聞いて、「優しくするだけでは人のためにならない」という考えに変わったという変化が書かれていた。『環境』では、「誰もが楽しめる環境はいい」という意見もあったが、話し合い後に、「クラス全体で誰でも過ごしやすい環境を作ることが大切だ」と、始めの考えに追加された内容の考えもあった。『平等』では、「同じ立場になる」という意見もあったが、話し合い後に「相手の事ばかり聴くのではなく、自分の意見も入れながら話した方がいい」という意見もあった。『会話』では、「自分の思っている事や言いたい事は、正直に素直に言う」という意見もあったが、話し合い後に「積極的に話すものいいことだが、あまり攻め過ぎない」という意見もあった。『協力』では、「協力をして助け合うことが大切だ」という意見もあったが、話し合い後に『「協力する」という意見を取り入れ、相手の気持ちを尊重するだけではなく、協力することも大切、よい関わり方だと考えた」という意見もあった。

3.9 話し合い前後の変化（個人）

話し合いが始まると、具体的な関わりの問題が出てきた。事例1～3を選んだ理由は、学級の中で一番変容があったからである。事例1は、学級35人の中で、定期試験の結果を判断するとほぼ真ん中に位置する成績でした。話し手の方を向いてしっかりと目を合わせて聴く姿勢が見られる。普段の生活は正義感が強く、よく意見を述べた。小学生の頃から保護者に悩み事を打ち明けていたようである。例えば、話し合い前は、「相手と積極的に話すよ」と考え、話し合い中は「積極的に話すよ、相手の気持ちを考えずに話すのと同じになる」と考えが仲間の意見を聞いて変化し、話し合い後は、「相手の意見を聴いて相手を知ってから話す」という考えに変化した（表9）。

表9 話し合い前後での考えの個人変容 事例1

考えた時期	考 え
話し 合 い 前	相手と積極的に話すよ。
話し 合 い 中	積極的に話すよ、相手の気持ちを考えずに話すのと同じになる。
話し 合 い 後	相手の意見を聴いて相手を知ってから話す。

事例2は、学級35人の中で、定期試験の結果を判断するとほぼ真ん中より少し上に位置する成績でした。話し手の方を向いてしっかりと目を合わせて聴く姿勢が見られる。人間関係のトラブルがあると、自分の力や友達とで何とか解決しようとしていた。仲間の悩みごとにも相談に乗ることが多い。話し合い前は、「誰にでも対等にする」と考えていたが、「主張すべき所と折れる所のすり合わせが難しい。初めての人は勇気がいるし労力もいる」と考えが変化し、話し合い後は、「自分の意見を伝え、他人の意見も大切にしておくべきだ」という考えになった（表10）。

表10 話し合い前後での考えの個人変容 事例2

考えた時期	考 え
話し 合 い 前	誰にでも対等にする。
話し 合 い 中	主張すべき所と折れる所のすり合わせが難しい。初めての人は勇気がいるし労力もいる。
話し 合 い 後	自分の意見を伝え、他人の意見も大切にしておくべきだ。

事例3は、学級35人の中で、定期試験の結果を判断するとほぼ真ん中より下に位置する成績でした。話し手の方を向いてしっかりと目を合わせて聴く姿勢が見られる。足に障害があり、今までに影で嫌なことを言われていたようです。負けず嫌いで、学級の生徒と同じことをやりたいと頑張るが、限界を感じてくじけることがある。また、障害を受け入れられないこともあった。介助の方に、始めは強い言動をすることもあったが、現在は無い。話

合い前は、「相手と笑顔で、正直に話す」という考えであったが、「笑顔で話すと、相手の気持ちがほぐれて距離が短くなる。笑顔で話すと、あざむかれているように受け取る人もいるので、難しい。正直に話すと、相手がどう思うかわからない」という考えになり、話し合い後は「正直に話すことは大切だけど、言いすぎではダメ。その人の合ったやり方で接するとよい」という考えになった（表11）。

表11 話し合い前後での考えの個人変容 事例3

考えた時期	考 え
話し合い前	相手と笑顔で、正直に話す。
話し合い中	笑顔で話すと、相手の気持ちがほぐれて距離が短くなる。笑顔で話すと、あざむけられているように受け取る人もいるので、難しい。正直に話すと、相手がどう思うかわからない。
話し合い後	正直に話すことは大切だけど、言いすぎではダメ。 その人の合ったやり方で接するとよい。

3人の共通点は、話し手の方を向いてしっかりと目を合わせて聴く姿勢が普段からできている。3人の普段の様子は、積極的に発表したり、友人と話したりすることがあった。この様子を見て、学力は中程度であるが、コミュニケーション能力が高い生徒たちであったと言える。コミュニケーション能力が高い人は、この話し合いによって、深い学びにつながると考えられる。

あまり考えが変化していない生徒は、テーマについて自分の考えを持っていた。自分の考えを持っている生徒については、あまり変容がみられない傾向がありました。変容が見られないということは、悪いことではないと考えた。特に、学力が高い人は変容がみられない傾向にあります。これは、自分の考えをしっかりと持っているため、あまり変わらなかったと考えられる。

あまり考えが変化していないという生徒もいたが、具体的な問題や内容を聴いた上で、自分の意見も考え合わせた結果、考えが変わらないという意見もあった。

4. 考 察

4.1 教師の働きかけの有無

教師の働きかけの有無で生徒の話し合いが続く物理的な時間が大きく異なった。また、話し合いの前に教師が働きかけ、話し合いの準備をさせたことで、話し合いがうまく進んでいった。従って、仮説1は、実態をよく表すものだと考える。

4.2 書面对話

村瀬（2015）によると、「口頭での議論では話し手は一人に限られ、他は聞くだけになってしまう。それに対して、書面对話は全員参加であるということから、多くの議論、つまり、論理的な交流が同時に生起することになる」と述べている。書面对話は、口頭での議論に比べても議論を促進させ、話し合いをする能力を涵養しやすい。更に口頭での議論より考える時間が確保できる。

全員が意見を書くことにより、全員が書面对話に参加することになる。書面对話での「書く」ということには、2つの特徴がある。1つ目は、自分の中でじっくりと考えてその理由を見つけ出すことができることである。2つ目は、意見を順番にまとめることができることである。更に、学級通信に掲載されている仲間の意見を読み、同じ考えや疑問点等を書くことができる。書面上なので、意見をじっくりと考えて、まとめることができる。時間はかかるが、学級通信を発行するごとに考えが深まることを見て取れた。中学生では「話し合い」に加えて、「書面对話」も一緒にやっていくことが大切であると考えられる。

4.3 思考が深まったことの判断の有無

振り返りシートから、始めの考えはケア的思考や創造的思考が大半であった。その後、他人の考えが書かれた学級通信を読んで、批判的思考が多くなった。これは、考えたことや疑問点に対して、思ったことや感じたことを生徒が率直に思考したことを書いたためだと考えられる。

その後、考えや疑問点が徐々に少なくなり、最後には出なくなった。

更なる書面对話を続けることで思考が深まり自分の中で納得できると、自然と生徒の記入の量が減ってくるものと思われる。そのため、本研究では、思考の深まりを生徒の記入した項目の数の減少と捉え、振り返りシートへの記入が無くなったところで、思考が深まったと判断した。

4.4 評価基準に合わせた思考

本研究では、河野（2014）の評価基準で評価を行ったが、概ね、生徒が書いた内容はあてはまった。生徒の意見は、話し合いをする前の『批判的思考』が0人だったが、1回目の話し合い後の『批判的思考』に分類される項目の数は11人と多くなった。話し合いを続けていくと、『ケア的思考』へと変わって、『批判的思考』は0人になったことを考えると、仮説2で示した通り、他人の意見に触れることで自身の考えが明確になり、生徒の思考が深まっていったと考えられる。

5. まとめと展望

中学校の生徒同士が話し合いを通して思考を高めることは、表9と表10～12の比較からわかった。話し合いで思考力が高まった理由として、話し合い前は生徒自身の体験だけで物事を考えて判断することになるため、一辺倒の考えになりやすいが、学級生徒35人との話し合いで、自分以外の34人の考えを知ることになり、その結果、話し合いをした人数分の考えを知ることになることが挙げられる。

振り返りシートを利用した結果について、次の2点が挙げられる。1つ目は、話し合い前と話し合い後に自分の気持ちと向き合える道具とすることができたため、思考することができたと考えられる。もしこのシートがなければ、話し合いに慣れていない生徒にとっては、話し合いはどんどん進んでいくために、考えをまとめることができず、話し合いでの言葉だけが耳から耳へ流れて、終わってしまう

と考えられる。2つ目は、このシートを利用するタイミングも大切である。話し合い前や話し合い直後にこのシートと向き合うことで、頭に残っている言葉を思い出しながら振り返りをし、印象に残った言葉の意味をしっかりと考えたり、意識して友達のことを取り入れたりすることができると考えられる。一方で、半日以上経ってからこのシートを使って振り返りをしても、話し合い中に出た言葉を忘れてしまい、意味をなさなくなる可能性がある。

学級通信を利用した結果について、次の3点が挙げられる。1つ目は、時間短縮ができたことである。この通信には、学級全員の考えが掲載されているため、一読するだけで学級全員の考えがわかり、話し合いをした時の言葉がよみがえったり、学級での自分の考えも確認したりすることもできる。話し合いは、どんどん進んでしまうため、考えごとをしていて聞き逃した言葉でも確認することができる。この通信に掲載されている言葉と再び向き合い、気になる文章に目を止めて考えることもできるのである。2つ目は、話し合い後に書かれた内容について考えたことや疑問点に関しては、話し合いをしている時のような雰囲気やニュアンスは、味わう事はできないが、じっくりと読み返して考えることができることである。3点目は、学級通信を読んで考えや疑問点を記入し、次号の通信に掲載されるという流れを繰り返すため、テーマに対する自分なりの考えを納得がいくまで練ることができるので、テーマからの学びが深められることである。

今回は、生徒にとっても改めて対話することが、おおかたの話し合いで、問いが噛み合わないことや問いの焦点がぼけたりすることもあった。一方で、話し合いを楽しんでいる様子もあった。どんなことでも、答えに対してその周りには様々な背景や複雑な思いがあり、それらに一つひとつ共感していくことが大切である。生徒自身がこれから何を学び、問い続けていくのか、生徒なりに考えることが大切であると考えられる。話し合いをしてみないとわからない答えが、生徒の知識となる。様々

な考えを知って、次の行動や問いが生まれると考える。全員が納得できるような考えを見つけ出すことや、もう一歩、考えを踏み込めると更に深い学びができると考えている。そのためには、教師はどのようにかかわっていけばよいか今後の課題である。今後も将来にわたって、生徒たちが問い、考えていけるような働きかけを検討していきたい。この実践を通して、生きる力としての思考力や判断力が身についていくと期待する。

<文献>

落合良行. 2000. 『小学五年生の心理—自由なナンバー2』
大日本図書

河野哲也. 2014. 『子ども哲学で対話力と思考力を育てる』
河出書房新社

河村茂雄. 1999. 「生徒の援助ニーズを把握するための尺度開発（1）—学校生活満足度尺度（中学生用）の作成—『カウンセリング研究』32：274-282

Lipman Matthew. 2003. *Thinking in Education* (2nd ed.)
Cambridge University Press. (河野哲也, 土屋陽介, 村瀬智之監訳. 2014. 『探究の共同体考えるための教室』玉川大学出版部)

Lipman Matthew. Sharp Ann Margaret and Oscanyan Frederick, S. 1980. *Philosophy in the Class -room* (2nd ed.)
Temple University Press (河野哲也, 清水将吾監訳. 2015. 『子どものための哲学授業「学びの場」のつくりかた』河出書房新社局：262-263)

文部科学省. 2019. 『中学校学習指導要領』

大河原美以. 2004. 『怒りをコントロールできない子の理解と援助—教師と親の関わり—』金子書房